

開設前の下調べ

～地味だけど重要、縦断勾配の確認～



佐久の「ろもうマン※」技術を伝承中

佐久管内でも木材搬出のための林内路網の整備が進められています。路網を開設する際、まずは地形図の上で起点と終点を決め、どのくらいの縦断勾配で開設できるか調べておきます。

紙面上で作業することから、ペーパーケースションと言い、業界ではペーパーケースと呼ばれています。

街中の道路はペーロケを基に路線図が作成される場合もありますが、森林内に開設する道は、線形だけでなく①森林資源の状況②残土処理場の確認③基幹道から林内へ容易にアクセスできるカーなど、多くの要素を確認しながら、現地を歩くことが重要になります。

上の写真は、春日県有林（佐久市）内に林業専用道を開設する事前調査として、平成25年の4月、先輩職員から、技術を教わりながら調査を行っているところです。

青いカップを着ている人がハンドレベルという器械を持ち、奥のポールマンを、設定した縦断勾配に入るよう誘導し、ハンド棒と言いつ目印杭を、ポールマンの場所に打ち、次々移動しながら目的とした終点まで調査していきます。

目的の終点に辿り着かなければ、逆に終点から調査し、何度も、高低を修正しながらハンド棒を入れ直すことで、まさしく道筋が決まります。

このような地味な作業はあまり知られていませんが、安全性に配慮した路網開設には必要な調査であり、これにより、効率的な木材搬出、低コスト林業が可能になります。

※長野県魅力発信ブログに掲載の「ろもうマンのへんくね日記」に登場する、路網に関する情報を発信する県非公式キャラクターです。